

序

平成 25 年 4 月 1 日、地方独立行政法人りんくう総合医療センターは大阪府立泉州救命救急センターと統合し、感染症センター10 床を含めて 388 床の新しい病院として再出発しました。平成 23 年度には 2 つの施設それぞれで I C U 増床などの病床整備等々のハード改良を行い、そして平成 24 年度においては病院と救命救急センターの強い連携のもと、脳、循環器疾患の救急患者の窓口一本化、2 次救急を担う病院の救急外来における救命救急医の支援、病床運営の円滑化を図る連絡会の設置等々の運営ソフトの改良に取り組んできました。両施設の職員が一丸となった 2 年にわたる綿密な準備作業により、平成 25 年度は新しいりんくう総合医療センターが未来志向の新たな医療を本格的に開始した記念すべき年でした。

この協働によりもたらされた効果は、救命救急センターの 3 次救急のみならず、病院の 2 次救急についても応需率が向上し、救命救急と脳センター、心臓センターとの協働は、治療の迅速化、効率化をもたらし、なお進化しつつあるといえます。さらに、急性期外科的病態に素早く対応すべく、病院の外科と連携して設立された Acute Care Surgery センターが徐々に本領を発揮しつつあり、整形外科、形成外科、口腔外科に至るまで、病院の多くの専門診療科が救命診療科と協働しており、救急医療の質の向上については今後のさらなる展開が期待されます。

この統合に関連して大幅に増員された看護師などの職員確保は、離職率低下などの要因も伴って順調に進み、教育研修委員会を立ち上げて新採用者の研修をできるだけ多職種共通で行うなどの工夫をしております。大勢の新卒採用者を抱えたため、救命救急センター I C U のフル稼働までには予想以上の期間を要し、また、救命救急と病院とをつなぐ病棟運営にはさらなる工夫を要しますが、現場職員の懸命の努力により安定した病床運営が可能になっています。

この年度におけるもう一つのトピックスは、総合内科・感染症内科の発足です。かねてからの念願であった総合内科常勤医が平成 24 年度に確保でき、平成 25 年度にはもう一つの念願であった感染症内科常勤医が確保できたものの、人数が少ないため総合内科・感染症内科という看板を立てたところ、この 1 年間の間にスタッフ数が急速に増え、内科部門で最大のグループになりつつあります。また、この診療科は救命救急との統合による協働作業の中で、内科的集中治療支援など、病院の専門医療と救命の狭間を埋める新しいチーム医療を提案していることから、今後のさらなる発展が期待できます。

立地条件から当センターを特徴づける要因の一つになっている国際診療科は、大阪大学医学部附属病院未来医療開発部に新設された国際医療センターと医療通訳などの分野で協力体制を組み、医療通訳者の育成では草分け的なこれまでの実績を生かして、新たな展開を始めています。

また、今年度は病院機能評価の新バージョンを受審し、病院を上げた強力な連携体制で臨み、無事に認定されています。この大変な年に、職員の頑張りには重ね重ね感謝々々。

医療改革が進み、今後の地域医療は迅速な変貌を余儀なくされる中、南泉州地域における新たな、そして良質な地域医療の構築に向けて、皆様方とさらなる連携を深め、より良い医療環境を整えるべく、今後とも尽力する所存です。

引き続き、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 八木原 俊克